

第8回 新花巻図書館整備基本計画試案検討会議 会議録

- 1.開催日時 令和4年4月28日(木) 午後2時～4時10分
- 2.開催場所 生涯学園都市会館(まなび学園) 3階 第2・3中ホール
- 3.出席者 委員出席者13名 堀合範子委員、小国朋身委員、山下牧子委員、
白岩拓樹委員、佐々木史昭委員、前野祐子委員、
福盛田弘委員、高橋美香委員、佐藤恒委員、小山田厚委員、
梅原奈美委員、平澤広委員、市川清志委員
- 欠席委員7名 熊谷恵委員、藤井公博委員、松田治樹委員、高橋一矢委員、
菊池桂委員、佛川恒明委員、佐藤敦士委員
- 専門家1名 富士大学 早川光彦教授
- 事務局6名 新花巻図書館計画室 佐々木室長、高橋次長、高橋上席主査、
多田主査、幅下主査、小田島主任
- 4.報道機関 なし
- 5.傍聴者 なし
- 6.会議内容

事務局(佐々木室長)

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今日、遅れると連絡をいただいた方がいらっしゃいますけれども、それ以外の方々、お揃いになっており定刻となりましたので、ただいまから、新花巻図書館整備基本計画試案検討会議の第8回会議を開会いたします。

それでは、会議を開始するにあたり、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、次第及び名簿、資料1「新花巻図書館建設候補地選定検討資料」という資料をお渡ししてございます。また前回、第7回でも使用いたしました「新花巻図書館整備基本計画試案 新旧対照表」、「意見交換会報告」、ということでございます。もし、前回もお話しした資料をお持ちでない方については、お話いただければと思います。

その他参考資料として、意見一覧表を添付しております。この一覧表の内容については、現時点では公表することに関しまして許諾を得ていないものでありますので、この会議限りとさせていただきます。取り扱いにはご留意願います。

その他、本日、白岩委員より資料の提供がございます。併せてご確認願います。また山下委員より資料をいただいておりますので、こちらも併せてご確認願います。

続きまして、会議に入る前に、今年度、年度が切り替わりましたので、新たに各団体より推薦を受け、新しく委員に委嘱された方を事務局でご紹介させていただきます。花巻市社会教育委員の小国朋身様でございます。次に花巻市PTA連合会の高橋一矢様でございます。高橋様は本日、所用のため欠席とのご連絡を受けております。次に人事異動により藤本委員の後任となった花巻市教育委員会事務局子ども課高橋美香でございます。

なお、本来であれば、新しい委員の皆様には一人一人、委嘱状を交付させていただくところではありますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、事前に各委員の席に委嘱状を置かせていただいております。ご了承いただきご査収下さい。

また本年度より、新花巻図書館計画室に新たに配属されました職員を紹介します。多田徹でございます。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、本会議の座長、市川生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

市川座長

皆さんこんにちは。今日は連休直前のお忙しいところに、集まりいただきまして大変ありがとうございます。いつもお話ししておりますが、新型コロナウイルス感染症の状況です。今日、議会がありまして市長も報告をしておりますけれども、少し減ってきたような感じではありますが、中々予断を許さない状況でございます。中部地区、また花巻は高止まりといえますか高いところで、中々減らない状況でありまして、特に小学校に以下の子どもたちを通じて感染が拡大していくような状況もございまして、学校や幼稚園、保育園などでも、非常に苦慮しているというような状況であります。その中で連休にはいっていくわけですが、そのあとまた増えるではないかという懸念もされてございまして、皆様方には引き続き、感染予防に十分注意していただきたい。この会議も今回も感染に十分注意して開催しておりますが、今後とも皆さまも活動いただきますようお願いしたいと思っております。

今日はまだ残っている試案の部分の部分を少し整理しまして、できれば建設候補地についての資料を今日準備いたしましたので、それをご説明させていただいて、皆様からまずご意見をいただきたいというのが、趣旨でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

毎回確認しておりますが、基本的に、この会議は、原則公開ということでやっておりますが、非公開を希望する方がいれば非公開としております。いかがでしょうか。公開でよろしいでしょうか。

委員

公開了承

市川座長

はい、ありがとうございます。それでは公開ということで行いたいと思います。

事務局（佐々木室長）

本日、あらかじめでございますが白岩委員から、この試案検討会議で検討してほしいという内容の申出がございまして、お手元に資料をお渡ししております。この件につきまして、議事に入る前に白岩委員より、内容についてご説明していただくことで、皆様よろしいでしょうか。

委員

了承

事務局（佐々木室長）

それでは、白岩委員、資料のご説明をお願いしてよろしいでしょうか。

白岩拓樹委員

すいません。まるごと市民会議の白岩です。資料は、4枚くらい配っています。私自身、試案検討委員になり半年がすぎて傍聴は初めから来ていました。その中で、うちのグループで話し合いをしてこういうことを改善したらどうかということをもとめてきました。先だって資料の2、要望書と書いてあるところなんですけど、4月4日に、まるごと市民会議と新花巻図書館を考える会の山下会長の2団体で市長に要望書を出しました。それは建設場所を早期決断してほしい。それが決まらないと中々市民の関心が得られないとか、なかなか進まないのでもまずは決めてほしいと。どこにするかは、まるごと市民会議と考える会ではちょっと考えが違います。考える会はまなび学園周囲、病院跡地で一つになっています。まるごと市民会議は駅前とまなび学園周辺と分かれていて一つにはなっていません。建設場所について、意見はありますが、まずは決めていただきたいということで要望を出しました。

前回、新旧対照表をいただきまして、前の試案と新しい改訂版の試案を見ましたが、分量が増えていまして、そろそろ集約とかまとめてほしいと思いました。分量が増えて中身の途中途中にワークショップや意見交換が差し込まれ、増えてしまって何が何だかわからなくなっているのではないかとの話ができました。そうすると全体のイメージがわかりづらくなるのではないかと。次の2～3頁はうちのほうで作成したのですが、概要版をまとめてみました。これがあるかどうかはわかりませんが、なるべく中身によってまとめたつもりです。基本方針は3つありますよね。3つありまして、文言もリファレンスとかサービスとか言葉がいっぱい繰り返してありまして読みにくいので、それをまとめたのです。うちとしては基本方針3つあるんですけど、花巻の都市計画、まちづくり総合計画とか教育振興計画など色々な上位計画によって整合性を持たなければならないと考えましたし、今まで出た図書館に関する問題点や課題点、町の問題点、それを考えたものが、一括で入ってまとめないと計画案としては成り立たないと思って作りました。それは3頁のまとめ案として作りました。まとめ案というのは3つのコンセプトと書いていますが、この中で、3つまでは基本方針に沿っています。あとの3つは図書館の本来の役目は貸出とレファレンスを徹底するということが一丁目一番地のはずで、それを目指さなければ図書館ではなくなるんですよ。まずは貸出・レファレンスをきちんとするというのを第1条件、真ん中の核になるわけでして、それであるから基本計画の中のレファレンスなどの文言を一括して貸出・レファレンス機能の充実としてまとめて一つのコンセプトとしたほうがいいのではないかと思います。あとはまちづくりに図書館を組み込むのか組み込まないのかの議論があると思います。その中でどういう思想でやるかということもまとめました。これを踏まえて、花巻市のまちづくりや総合計画でどういう位置づけになるかを入れてほしいと思い、まとめましたので見ていただきたいと思います。

事務局（佐々木室長）

それでは、今、白岩委員にご説明いただきました内容について、委員の皆様からご意見、ご質問といったようなことはありますでしょうか。それでは委員の皆様にも、すいません改めて確認をいたします。ただいまいただきました白岩委員からの検討事項につきまして、どのような対応にするかというところですが、何かお考えをお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか。

佐々木史昭委員

資料を作ってご披露いただきありがとうございます。商工会議所から出ている委員の佐々木です。私も組織で一つのことを決めごととして進めようとするとき台が事務局から出ていますが、ある程度具体的なものが出ているものに対して、既に出てきているものに対して具体的な指摘をしていただくことは取り扱いが楽ですが、このような形で、違った形で、意見書が出されると、実際事務局もどう扱っていいか困るし、私らの仕事を進める上においては、これ、じゃあどうしてほしいんだというふうな感じになると思います。頭の整理のために、このような形を出されてですね、発表いただいて、書かれている内容は、そのとおりでいいんじゃないかなという部分が多いんですけど、取扱いをどうしようかっていうとなかなか大変なので、もしこうしてほしいということが明確なのであれば、出されている事務局案に対して直接このところはこのほうがいいのではという言い方のほうがよろしいのかなと思いました。

事務局（佐々木室長）

ありがとうございます。いただいております資料のほうは、そのとおりとして審議の中でご意見をいただくという、ご提案がございました。取扱いとしてはそのような形でよろしいでしょうか。

白岩拓樹委員

忘れていました。一つは基本計画のまとめとかまとまったやつ概要版を私達では作って、関連計画との位置づけとか全体スケジュールとか政策手順とか数値目標、例えば、登録率を何%、1人当たり貸出

冊数何%ってというのは、ちょっと私達わからないので今回書きましたが、これで一度概要版として、一回市民の方に公表したらどうか。今、私、どこまでやっているかわからないと言われてます。概要版を広報で出したほうがいいんじゃないかなと思います。そのために、今回はこういう形にしてほしいなということで書きました。

あとですね。もう一つですね。今後の検討会議の在り方について、上田市長が、新聞のインタビューで建設場所については、検討会議で一定の方向性が示された場合には、広く市民の意見を伺う仕組みをつくる必要があるのではないかと答えていますが、これはどういう意味なのか。

いろんな意見が出ると思うんで、ここで決まらなかったら、別の市民の方を集めて話し合う仕組みをつくる方向があるのか教えていただきたい。

事務局（佐々木室長）

今、白岩委員から、概要版という話が出ました。概要版といいましても、現時点であくまでも基本計画の試案をまとめているという状況でございまして、まだそこが固まっていないというものでございまして、試案に対するご意見がこの会議でまとまった時点、あるいは基本計画を公表する時点で、いずれかでこの概要版、市民の方にもわかりやすく伝えられるようなものですね、こちらのほうをつくってまいりたいというふうに事務局では考えているものでございまして。

それから試案検討会議の方向性という話が出ました。市長も一定の方向性が示せなかった場合という限定でお話をしているものでございまして、あくまでも、このことについては、まず、この試案検討会議で一定の方向性を見出すことができる。というような形で委員の皆さんからご協力をいただきながら、議論を進めていきたい。現時点では考えているものですので、ご理解をいただきたい。

それでは、この件につきまして、ご意見等ございますか。この件については、ある程度事務局のほうに任せていただければと思います。

では議事のほうに入りたいと思います。これ以降の議事については、座長にお任せいたします。

市川座長

前回、3月18日の検討会議では、事務局で作成した試案について、新旧対照表で進めさせていただきましたが、早く進めたというわけではないではないですが、どんどん進んでしまった部分もありまして、後から見たら何かってというようなことも、もしかして、あるかもしれません、何か、ご意見などお持ちの方はありますか。よろしいでしょうか。

それでは前回以降について、説明でいいですか。

事務局（高橋次長）

では説明させていただきたいと思います。前回の会議に配付させていただきました、新旧対照表のほうをご準備いただけますでしょうか。

新旧対照表46頁をお開き願います。46から47頁の施設の規模について、修正前は算出方法の記載はありませんでしたが、どのような形で面積を算出したかという記載はなく、第2回会議内において、ご説明させていただいた新図書館の床面積の目安の算出方法について記載させていただきました。

次に48から60頁の具体的な空間計画について説明します。こちらについては、加除修正等はございませんが、例えば51頁⑤新聞・雑誌スペース 主な設備について○で記載しております。また、55頁閉架スペース 主な機能で○万冊程度保存可能というように○で記載している部分については、現在、早川先生のご指導をいただきながら、蔵書計画等を作成した上で追加したいというふうに考えております。

以上こちらまでのご説明とさせていただければと思います。

市川座長

今の説明に対して何かご質問、ご意見有りますでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、一応まずは先に進めたいと思います。では次に、62 頁、お願いいたします。

事務局（高橋次長）

新旧対照表の 62 頁 7 建設場所をお開き願います。こちらにも追加した部分だけご説明させていただきたいと思います。こちらには検討会議内において、花巻市議会新花巻図書館整備特別委員会の提言内容について確認がございましたことから、令和 2 年 12 月 17 日付けの議会での特別委員会の提言概要を追加させていただいております。それ以降については、修正等はございません。以降は従前のままでございます。以上でございます。

市川座長

今の部分については、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。よろしければ先に進めたいと思います。

では、次に、新花巻図書館建設場所について、検討に入りたいと思います。

本日、山下委員からも資料の提示がありまして、これについても山下委員からお話しいただきたいと思いますが、まず最初に、事務局でつくりました建設場所検討の資料を説明してから、まずは、その説明に対する質問を受けて、委員の皆さんで意見交換したいと思います。意見交換の最初に山下委員から意見をいただくということをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では先に、事務局説明をお願いします。

事務局（高橋次長）

建設場所の検討にあたりまして資料として先ほど部長が申し上げましたとおり本日配付させていただきました、横版新花巻図書館の建設候補地、選定検討資料というものもございまして、あとの意見交換等における建設候補地に関する市民の意見等というものを準備させていただきました。

ご説明させていただくのは、新花巻図書館建設候補地選定検討資料のほうを説明させていただきたいと思います。

意見等については皆さん参考にしていただいて議論の参考にしていただければと思いますが、まずは、検討資料のほうでご説明をさせていただければと思います。

では、新花巻図書館建設候補地選定検討資料の 2 頁をお開き願います。同頁番号については左下に記載しておりますのでそちらでご確認願います。2 頁 3 頁目については、建設場所について、これまでの検討経過として、市民や議会の皆様から承認を受けた内容を記載しております。読み上げて説明させていただきます。

2 頁目、I これまでの検討経過、1、新図書館基本構想、こちら平成 29 年 8 月のものです。新花巻図書館整備基本構想、3、新図書館の整備方針（3）、建設場所に関する方針より抜粋させていただきました。

こちらのほうでは（1）として、図書館としての利便性を確保、図書館は市民を初めとする利用者にとって利用しやすい場所にあるべきということで、交通アクセスがよくわかりやすい場所、市全域から行きやすい場所、十分な駐車場が確保できる場所ということが記載されております。

また（2）として市街地再生に資する施設と記載されております。図書館は市街地再生に資する施設として、まちづくりや都市計画との整合したものとする必要がある。こちらに、都市機能誘導区域内に整備、近接施設との連携や他施設との複合化など民間との連携も含めて検討ということで記載されております。

こちらを建設場所に関する方針として定めた上で、複数候補地を選定した上で基本計画において場所を定めることとするという状況が、基本構想で、市民の皆様から承諾を得ているものでございます。

続きまして、これまでの検討経過として、3頁目になります。

Ⅱ 花巻市議会図書館整備特別委員会、市への提言として、令和2年12月17日付、市長へ送られたものでありますが、(1)新花巻図書館整備特別委員会は、特別委員会を8回、小委員会を13回開催し、市内4か所で意見交換会と参加者アンケートを実施されております。

また検討結果を市への提言としてまとめて以下のように提言内容を市長に送っております。提言内容をそのまま読ませていただきます。

建設場所について、①建設場所について、新花巻図書館整備基本構想建設場所に関する方針に基づき、都市機能誘導区域内への整備をすることとし、市が提案する花巻駅周辺及びまなび学園周辺のいずれかとされたいこと。

なお決定に当たっては経過、及び理由を明確にし、市民の理解が得られるように努めること。

②建設用地について、建設用地は市有地とすること、先に建設することにより、将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素は避けるべきであること。

③複合施設について、図書館単独での整備を基本とすること。

新花巻図書館整備基本構想に盛り込まれた、市民のくつろぎと交流スペースとして、飲食コーナーは、図書館に必要な機能の一つとして位置づけ、整備を検討されたいことということで議会のほうでは、こちらのほうまで提言として、市に提出されております。

次に4頁をお開き願います。

4頁から6頁については、2から3頁の内容、こちらの、もう現段階で決まっている内容と事務局では理解しておりますが、内容をもとに検討に当たって、各委員の皆様、前提条件・比較条件を整理し項目等を示させていただきました。また、読み上げさせていただきたいと思っております。

Ⅱ 検討に当たる前提条件の整備 1、基本構想整備方針に基づき各項目ということで、大項目で二つ、同じように方針と同じように整理させていただいております。

建設候補地を選定するに当たり新花巻図書館整備基本構想で示す建設場所に関する方針をもとに以下のように比較項目を整理する。

(1)として図書館としての利便性の確保、先ほどあったように基本方針に示されている内容でございます。

図書館は、市民を初めとする利用者にとって利用しやすい場所にあるべき、①基本構想に示す事項としては、A 交通アクセスがよくわかりやすい場所、B 全域から来やすい場所、C 十分な駐車場が確保できる場所、こちらを踏まえまして事務局のほうでは比較項目案として②のほうを検討させていただきます。

A バス、鉄道の交通結節点、駅からの距離(徒歩)を計算させていただいております。

B 最寄りのバス停や周辺道路環境、こちらのほうを整理させていただいております。

C 市駐車場の現状及び整備計画、ということで整理させていただいております。

(2)市街地再生に資する施設、図書館は市街地再生に資する施設として、まちづくりや都市計画と整合したものとする必要がある。

①、基本構想に示す事項として、D 都市機能誘導区域内に整備、E 近接施設との連携や他施設との

複合など民間の連携も含めて検討、②比較項目としては、Bに関しましては全て先ほどあった、J R花巻駅前周辺とまなび学園周辺については都市機能誘導区域でございますので、全て該当している状況でございます。

また、Eとして、近接施設の状況というものを比較項目としてあげさせていただいております。その中で、(1)図書館の利便性の確保として、C 駐車場の現状及び整備計画ということで、どれぐらいの駐車場が適しているのかという部分については、データで示したほうがいいのかと思いましたが、データのほうを示させていただいております。こちらもそのまま読み上げて説明させていただきます。

駐車場算出台数については、国の指針等を活用させていただいております。国では特段図書館という項目ではございませんでしたが、経済産業省のほうで、大規模小売で設置する者が配慮すべき事項に関する指針というものを定めております。その中で、計算方法及び大規模開発地区関連交通マニュアルに、計算方法も記載されておりましたのでそちらで算出させていただいております。事例として宮城県多賀城市さんのほうでも、これらを参考に算出しております。

②として、算定に当たりまして想定算出条件のほうを定めさせていただいております。図書館の面積、こちらは、検討会議のほうでも何度もお話しさせていただいておりますように、4500㎡、地区としては、J R用地については、商業地域、まなび学園についてはその他地域という項目になります。こちらも、指針のほうから判断させていただいております。人口は、令和3年9月30日時点、9万3682人で計算させていただいております。駅からの距離はまなび学園が890m、J R用地は30m程度ということ進めております。ピーク率というのがございますがこちらも指針に定める14.4という数字をそのまま活用させていただいております。

どのような算出式かについては、右上のほうにオレンジで記載しております。それぞれ数字がございませが計算方法もインターネット上で計算フォームが公開されておりますので、設計事業者等も利用するフォームを活用させていただいております。

真ん中の表に項目入力値という部分があるかと思います。一覧表ですが、左側がJ R用地部分、右側がまなび学園周辺の用地になります。このフォームは、店舗面積、地区、人口、駅からの距離、ピーク率を入力しますと、計算を開始します。このフォームの計算によるとJ R用地については123台、まなび学園は228台が必要という数字がそれぞれ算出されております。

続きまして、参考ということで、6頁目をお開き願います。類似図書館の駐車台数がどのような状況かという部分を調べさせていただいております。こちらについては東北地方において最寄駅から徒歩15分圏内、J R用地周辺及びまなび学園周辺どちらも15分圏内でございますので、まずはその条件で主な類似図書館の駐車台数を調べさせていただいております。

項目としては、左側から、所在市町村、図書館名、人口、最寄駅名、駅からの距離、駐車台数を記載しております。駐車場に関するものの備考、複合施設かどうかについて、その他備考を提示しております。

一関図書館は、第1駐車場は建物の下にあるものですが、120台程度、図書館周辺で利用できる駐車場が74台あるということでございます。

次に、早川先生が関わった南相馬市図書館ですが、83台の駐車場とその他周辺に30台の駐車場をうまく使われているようでございます。その他、近年整備された図書館では、久慈市新図書館は、44台の駐車台数になっております。

データを見ていただくとわかりますが、図書館とその他施設の複合化施設では、駐車台数が多くなっている傾向にあります。

紫波町図書館は、駐車場台数 86 台ですが、周辺に 290 台の駐車場がある。陸前高田市も 110 台の駐車場と周辺に 360 台を周囲に駐車することができるようになっております。先ほど算出させていただいた数字につきましては、目安として駐車場のほうを検討していければいいなというふうに考えております。

ここまで、現在まで決まっていることから、事務局のほうで、委員の皆様が検討しやすいように比較項目を整理させていただきました。一旦、以上でございます。

市川座長

一旦ここで切りたいと思いますが、ここまでの説明で、わからないことを、質問等はございませんでしょうか。

佐々木史昭委員

6 頁の資料、駐車場 1 と駐車場 2 の違いは具体的に何か

事務局（高橋次長）

駐車場 1 は、図書館と直結しているもの、図書館建物内にあるという形のもので整理させていただいております。例えば紫波町のオガールでいうと、オガールプラザに 86 台ありますが、その他周辺で 290 台となっております。駐車場 1 は 86 台、駐車場 2 は 290 台という形に整理しています。

佐々木史昭委員

周辺まで含めて駐車場台数を考えているということでもいいですね。

事務局（高橋次長）

はい、そのように考えております。

市川座長

はい、ほかにご質問ありませんでしょうか。

白岩拓樹委員

駐車場の考え方ですが、都会ですと図書館に駐車場がないところもあると思います。また図書館に駐車場は考えなくてもいいという考えもあったかと思えます。先ほど、まちづくり計画のことを言いましたが、花巻市の場合はコンパクトシティーとかで公共交通を効率的に使うという方向でまちづくりをするというだと思いますが、それとこの駐車場の計算方法、将来、花巻がこういう交通機関でコンパクトシティーと交通量とか公共施設をたくさん使うから、あまり車を使わない方法でいくかというのか考えた上で何か、考えていうかそれもあった計算とかしているか教えてほしい。

事務局（高橋次長）

確認は取れていませんが、車を使わないとか公共交通を推奨するという計画は出ていないと思います。ただ、駐車場に関して言うと、今回図書館で図書館を高齢者の方や、障がいのある方などをする場合駐車場は必須になると思います。ですので、その部分の考え方を含めてどのような台数が必要かという観点で、ある程度、いろいろ調整させていただいて、大規模小売で設置する者が配慮すべき事項に関する指針であれば、そちらの方も加味したものとなっておりますので、そちらから試算させていただいております。

白岩拓樹委員

大規模店舗を想定しているということですか。図書館を複合施設として。

事務局（佐々木室長）

そうではなくて、あくまでも図書館が、他の商業施設と類似して人が集まる場所っていうことになりますので、人の集まる場所という観点から、大規模施設と同じ内容での指針の台数をまず出していったっていうことでございます。

これと 5 頁の表と 6 頁の表がありますけれども、例えば一関図書館を事例として出しますが、5 頁で算出した台数について、一関図書館は同じような数字、若干上下はありますが、同じような数字が出ております。

花巻市が、公共交通を推奨しているのはそのとおりでございまして、できれば交通弱者の方にも、いろいろな交通手段を提供しつつ、進めていきたいという部分はありますが、現実問題として、自家用車を利用するという方のほうが圧倒的に多いという部分もありますので、ある程度人が集まる施設には、一定の駐車場が必要だという考えのもとに、この数字のほうは算出しているものでございまして、ご理解をいただければと思います。

白岩拓樹委員

わかりました。ついでに言えば、例えば私は車持ってないんで、JRにある図書館にあちこち行っています。紫波図書館とか岩手県立図書館とかにときどき行くんですけど、そういう使い方をしていまして、例えばお年寄りの方、車で行けるかどうかと。行けない方もいるかもしれないです。

ただ逆に、車で行けない方はその近くまでの貸し出しシステムをつくるとかそういう工夫も、あるかもしれないんで、ただ単に駐車場が単純に車を使うから駐車場じゃなくて、そういう行けないところではなく、できればお年寄りの方は余り運転したくない方もいると思うんですね。行けない方に関しての貸出サービスをどうするか、移動図書室を創出するか、移動図書館の活動するそういうのも考えて、これから検討したほうがいいと思います。

市川座長

まずは今の説明に対する質問をお願いします。

平澤広委員

現在、まなび学園だと何台停めることができるのでしょうか。また現在の図書館はどれくらい停めることができるのでしょうか。具体的な数字を教えてください。

事務局（高橋次長）

それぞれの具体的な数字については、この後個別に説明いたします。今、説明した内容は、説明するにあたり検討の比較項目について、説明させていただいたものです。

福盛田弘委員

確認です。一関図書館は、文化会館に隣接し共同で使っているか思います。この数値は共用の台数ということでもいいか。それとも単独の台数となっているか。

事務局（高橋次長）

こちらは、福盛田委員がおっしゃるとおり文化会館が図書館の隣接施設になっていますので、共用の駐車場台数となっています。一関図書館については、周りにも、駐車場もございまして、確認したところ、一体的に使っているというふうに、お話をうかがっています。

福盛田弘委員

これは共有の分だね。単独になっているのではないか。

事務局（高橋和）

120 台は図書館の駐車場になります。74 台は文化会館の駐車場ですが、図書館と文化会館が両方使えるということになっておりましたので、そういう形で記載をさせていただいています。

市川座長

では、次に進んだ上で、また質問、意見という形で進めさせていただければと思います。

事務局（高橋次長）

次に 7 頁をお開き願います。7 頁については試案に記載されている 7 か所の候補地について概要を記載させていただいております。こちら試案の中でも、ご確認いただいている内容になりますので、それぞれ個別のご説明に入らせていただきます。

次に 8 頁をお開き願います。

8 頁以降については、7 頁に記載した候補地それぞれについて、先ほど説明させていただいた 4 頁の比較項目について記載しております。では順を追って読み上げて説明させていただきます。

Ⅲ 建設候補地の検討 1 まなび学園周辺 ア・イ、こちらは先ほどの表では、二つになっておりますが、花巻営林署跡地 A・B ということで説明させていただきます。

(1) 比較項目として、①図書館としての利便性の確保、A J R 花巻駅からの距離は約 720m、徒歩 11 分、これは大体 4 キロ 1 時間で歩く時速というふうに考えております。

B 最寄りバス停や周辺道路環境、バス停は、市街地循環バスの花巻町のバス停がございまして。これは左回りが 10 本、最終が 17 時 9 分、右回りが 10 本、最終が 17 時 6 分となっております。

イの周辺道路環境については、市道城内大通一丁目線、市道上町坂本線、市道吹張花巻町線等がございまして。

C 先ほど平沢委員よりご確認がありましたが、駐車場に関しましては、病院跡地、現状で 273 台の整備を計画しております、図書館分として 200 台が増となります。現状は、右の図をご覧くださいと思いますが、33 台と 106 台があるという状況でございまして。

A 案と B 案の比較ですが、右の図、図書館の建設範囲が縦長になっております。こちらが B 案で右側に 12 台、駐車場が確保出来ますが、A 案はこの建物が、横に配置され A 案の場合、駐車場のエリアはないという形になります。

②図書館としての利便性の確保でございまして。D 先ほど申しましたとおり、こちらは都市機能誘導区域内ですので、以降につきましても、こちらは省略させていただきたいと思っております。E 近接施設の利用者数等です。まなび学園の年間利用者数としては、令和 2 年度は 5 万 7716 人、令和元年度が 14 万 5977 人、平成 30 年度は、17 万 1434 人となっております。

(2)その他、特記事項として、以上のことが挙げられます。① 総合花巻病院の解体工事の関係でございまして。こちらは解体工事、土地売買交渉、人工地盤の問題がございまして。周辺道路関係については、都市計画道路の関係、市道城内大通一丁目線の拡幅、住民説明と工事に伴う用地交渉が必要となります。市道吹張霞城町線の並木の拡幅、西側南側への擁壁整備が必要になります。また近接駐車場を整備した場合、B 案は道路の切替えが想定されるということでございまして。

続きまして、9 頁をお開き願います。同じように報告させていただきます。

こちらは、1 まなび学園周辺、ウ まなび学園前になります。(1)比較項目として、図書館としての利便性の確保、J R 花巻駅からの距離は約 770m、約 11.5 分、時速は 4 キロになります。

B 最寄りのバス停や周辺道路関係については、先ほどと同様に市街地循環バスの花巻町のバス停があり、左回りが 10 本、最終が 17 時 9 分、右回りが 10 本、最終が 17 時 6 分となっております。

イの周辺道路環境については、市道城内大通一丁目線、市道上町坂本線、市道吹張花巻町線等がございまして。

駐車場については、病院跡地に 273 台整備します。現状と比較して図書館部分として 162 台が増となります。ただし、まなび学園の利用者にとっては若干遠くなる可能性がございまして。

②図書館としての利便性の確保について、D はそのとおりでございまして。E 近接施設の利用者数等は、まなび学園の利用者数として、令和 2 年度は 5 万 7716 人、令和元年度が 14 万 5977 人、平成 30 年

度は、17万1434人となってございます。

(2)その他、特記事項として、以上のことが挙げられます。こちらは解体工事、土地売買交渉、人工地盤の問題がございませう。周辺道路関係については、都市計画道路の関係、市道城内大通一丁目線の拡幅、住民説明と工事に伴う用地交渉が必要となります。市道吹張霞城町線の並木の拡幅、あとは③まなび学園土地利用がございませう。まなび学園は今後25年程度で解体する可能性がございませう。長寿命化により80年使用が可能となりますが、あと25年経つと、解体する必要があるということがございませう。

10頁をお開き願ひませう。

こちらは、1 まなび学園周辺、エ まなび学園体育館ということになっておひませう。(1)比較項目として、①図書館としての利便性の確保、A JR花巻駅から距離は約740m、約11分、時速は4キロになります。

B 最寄りのバス停や周辺道路関係については、先ほどと同様に市街地循環バスの花巻町のバス停があり、左回りが10本、最終が17時9分、右回りが10本、最終が17時6分となっております。

この周辺道路環境については、市道城内大通一丁目線、市道上町坂本線、市道吹張花巻町線等がございませう。駐車場については同じように現状と比較して273台を整備し、図書館分としては193台増になります。

②図書館としての利便性の確保について、Dはそのとおひませう。E 近接施設の利用者数等は、まなび学園の利用者数として、令和2年度は5万7716人、令和元年度が14万5977人、平成30年度は、17万1434人となっております。

(2)その他、特記事項として、以上のことが挙げられます。こちらは解体工事、土地売買交渉、人工地盤の問題がございませう。周辺道路関係については、都市計画道路の関係、市道城内大通一丁目線の拡幅、住民説明と工事に伴う用地交渉が必要となります。市道吹張霞城町線の並木の拡幅となります。③まなび学園体育館等の関係については、体育館の利用率が高く、解体する場合は代替施設の建設が必要になります。体育館利用数は、年間、令和元年度919件1日当たり2.9件、利用者数は、1万9858人の方が利用されておひませう、1日平均で63.44人となっております。こちらのほうにつきましてもまなび学園と同様に、あと25年程度の利用でその後解体する必要があるということがございませう。

次、11頁をお開き願ひませう。

11頁につきましても、1 まなび学園周辺 オ 総合花巻病院になります。こちらの(1)比較項目として、①図書館からの利便性の確保、A JR距離は約770m、約11.5分 B 最寄りのバス停や周辺道路関係については、先ほどと同様に市街地循環バスの花巻町のバス停があり、左回りが10本、最終が17時9分、右回りが10本、最終が17時6分となっております。

この周辺道路環境については、市道城内大通一丁目線、市道上町坂本線、市道吹張花巻町線等がございませう。駐車場については病院跡の区画スペース252台を整備する予定でございませう。そうすると図書館分として152台増ということになります。

②図書館としての利便性の確保について、Dはそのとおひませう。E 近接施設の利用者数等は、まなび学園の利用者数として、令和2年度は5万7716人、令和元年度が14万5977人、平成30年度は、17万1434人となっております。

(2)その他、特記事項として、こちらは解体工事、土地売買交渉、人工地盤の問題がございませう。②周辺道路関係については都市計画道路計画がございませう。また、次に市道城内大通り一丁目線拡幅が必要、こちらは住民説明と用地交渉が必要であります。③として埋蔵文化財保護がこちらには関わってまひませう。旧総合花巻病院跡地の駐車場跡地については、花巻城跡の濁堀跡の中になっておひませう。保存活用に

については、教育委員会において、濁堀跡底面部について、緑地化などを検討していると伺っております。

次に 12 頁をお開き願います。

12 頁、まなび学園周辺全体になりますが、花巻総合病院跡地に関することにつきまして、一度こちらについては、検討会議内で情報共有をさせていただきましたが、改めて、現状についてご報告させていただきたいと思っております。

(1) 総合花巻病院の建物・施設の解体、人工地盤に関する状況。工事の概要、A 工事場所は花巻市花巻町 4 番 28 号でございます。B 工事対象面積は、1 万 8348.86 m²、C 工事スケジュールは、令和 3 年 12 月 1 日から令和 5 年 3 月の末日と予定されております。D 土地の売買ですが、土地建物施設解体後、花巻市と公益財団法人総合花巻病院の双方が不動産鑑定評価を行った上で当該評価を基準として協議の上、決定させていただくこととなっております。こちらについても、花巻市の土地ではないため、土地売買が必要となります。E 人工地盤の取扱いとして、敷地南東部にある駐車場及び車路については、現段階では解体せず 3 年後を目途に解体の上、市に譲渡するという予定になっております。こちらにつきまして価格は双方の不動産鑑定に基づき協議し、決定することになっております。状況については、右側の図面によりご確認願います。

13 頁をお開き願います。

13 頁は (2) 市指定史跡花巻城跡について記載させていただいております。

総合花巻病院跡地駐車場は、岩手県の遺跡台帳に登録する花巻城跡の範囲で、濁堀跡の範囲として登録されております。花巻市教育委員会は、平成 27 年度より、花巻城跡調査保存検討委員会を設置して、調査と保存の在り方を検討しております。保存活用については委員会で検討がなされておりますが、濁堀跡底面部について緑地化の可能性もあると伺っております。

次に、14 頁をお開き願います。

14 頁は、(2)市道城内大通一丁目線安全対策になります。市道城内大通一丁目線、赤い線の部分になります。こちらは、通勤通学を目的として利用者が多い状況ですが、歩道もなく危険であるために早期に歩行者の安全確保対策が必要になっております。なお、市道城内大通一丁目線は、黄色の線の部分になりますが、都市計画道路の計画がありまして、都市計画道路の整備か、現道への歩道整備かの住民合意が必要でございます。

①現道への歩道整備、赤い線の部分、大通りのコンビニエンスストア交差点から幸橋を通り合同庁舎までの道路であります。こちらは 2 案検討しており、赤い箱になりますが、1 案では 5 年、2 の 6 年が見込まれております。実施するには歩道整備周辺、住民の理解と協力、建物移転が 3 軒から 5 軒が必要となっております。

②都市計画道路の整備、黄色い線の部分、万代橋から合同庁舎への直線道路、新しい橋梁工事や交差点改良など大規模な工事となり、事業費も膨大で事業期間も長期になることとされております。都市計画道路と現城内大通一丁目線に高低差が生じ、道路北側住民の都市計画道路が不便になることが予想されます。また道路整備に周辺住民の理解と協力が必要で建物移転が 12 件必要になっております。城内工区側、青色の線、オレンジ線の部分は、住民合意が難しく、一体的な整備が現状では困難になっている状況でございます。

15 頁をお開き願います。

15 頁については、まなび学園の諸室、連携して使える建物施設、このような施設があるということで、パンフレットをご提示させていただいております。

では、そのまますみません一方的な説明があつて大変恐縮でございますが、16 頁をお開き願います。

16 頁については、2 花巻駅周辺、カ J R 用地スポーツ用品店敷地でございます。(1)比較項目として、①図書館としての利便性の確保、A J R 花巻駅から距離は約 30m で 1 分程度、B 最寄りバス停や周辺道路環境は、バス停が平日 13 路線、上りが 92 便、下りが 89 便、市の周辺道路関係は県道花巻和賀線がでございます。駐車場につきまして 253 台の整備を予定しております。これは新規、立体駐車場二階を計画し想定しておりますが 171 台、同じく新規、図書館前に平面駐車場整備 22 台、既存のなはんプラザ東側市営駐車場が 60 台を計画しております。現状は、図面の①と②の合計で平面駐車場 181 台となっておりますので、72 台の増という形になります。②図書館としての利便性の確保、D は都市機能誘導区域内でございます。E 近接施設の利用者数等につきましては、駅施設の利用者数等で J R 花巻駅における 1 日の乗車人数、令和 2 年度は 3,269 人、令和 3 年度 2,847 人東北本線が上り 33 便、下り 35 便、釜石線が上り 11 便、下り 10 便となっております。

(2)その他特記事項として、①用地関係、J R スポーツ用品敷地への建設は、当該用地の買収について J R との協議のうえ合意が必要でございます。またスポーツ用品店解体費用の負担を求められる可能性が高くなっております。②駐車場、①の立体駐車場化が必要となります。また、J R 敷地内に高齢者や障がい者向けの平面駐車場を確保することを検討しております。なお必要となる場合は①の 1 階に、高齢者や障がい者向けの駐車場を確保することを検討しております。

(3)橋上化、東西自由通路との関係でございます。基本的に、図書館の整備と J R 花巻駅橋上化・東西自由通路の整備はそれぞれ別物であります。橋上化の整備を行い、西口に駐車場整備できる場合には、東口の駐車場の必要台数について、西口の駐車場として一体と考えることができる可能性がございます。

17 頁をお開き願います。

17 頁は、2 花巻駅周辺、キ 花巻駅南駐車場なはんプラザ東側になります。

(1)比較項目、①図書館としての利便性の確保、J R 花巻駅からの距離約 30m で 1 分でございます。B 最寄りバス停や周辺道路環境、ア バス停は平日 13 路線、上り 92 便、下り 89 便周辺道路は県道花巻和賀線がでございます。C 駐車場、こちら立体駐車場 4 階を計画しております。この場合、1 階が幅広区画の場合、305 台、現状より 124 台増となります。(2)図書館としての利便性の確保については、先ほどのスポーツ用品店と同様でございます。

(2)その他事項、①用地関係、こちらは敷地面積が少なく、建物は三階建ての建物になる可能性がございます。②駐車場、図面上①の駐車場の立体化が必要になります。この場合、近接駐車場スペースの設置が困難になる可能性があります。また駅近接の駐車場がなくなることとなります。その他、ホテル利用による駐車場利用者の利便性が損なわれる可能性がございます。③橋上化、東西自由通路との関係については、東西自由通路の整備を行う場合、西口に一般駐車場を整備する可能性がございます。

なお、最終 18 頁に連携が考えられるなはんプラザ諸室概要を添付させていただいておりますので、ご確認願います。

以上でございます。

市川座長

はい、1 通り説明をいたしました。まずはこの資料の中でわからない点などがあると思いますが、まずは質問をお受けしたいと思いますが、ありませんでしょうか。

平澤委員から先ほどご確認のあった、現在の図書館の駐車場については、基本計画で書いている段階では、図書館の前に駐車スペース 20 台で、文化会館が 350 台、含めると最大で 470 台となります。ただ去年です。ね花西振興センターがあった場所を駐車スペースとしているので、その台数はちょっと入っていないと思います。それも含めると、さらに 20 台ぐらいはプラスされているのかな。

事務局（佐々木室長）

まなび学園のほうですが、現在 220 台程度が周辺の駐車場として、この敷地内の駐車場として確保してございまして、そのうち 20 台程度を振興局のほうにお貸ししていますので、概ね 200 台程度です。

市川座長

それでは進めながらまたわからないことがあったら、質問も含めましてご意見をいただければというふうに思います。

では、山下議員から、意見についてお話をいただいでよろしいでしょうか。

山下牧子委員

皆さんのお手元にお配りしました。

書面を読み上げ、私の意見をいたします。

これまでの検討会は、建設場所が 1 度も討議されないという片手落ちの検討会の感じがします。私はここで、各委員さん方の意見を聞きたく、私も意見を述べたくと思っていました。以下、私の意見述べさせていただきます。

私達新花巻図書館を考える会では、以前、建設場所は旧総合花巻病院跡地を含むまなび学園周辺にと、署名 2100 筆を市民の皆様から集め、市長に届けました。その後、私達は市民の皆さんの指摘を受けながら建設場所をまなび学園周辺という曖昧な点を含むものではなく、はっきり旧総合花巻病院跡地と絞り込みました。

その理由 1 として、敷地が広く立体駐車場でなくとも広い駐車場が確保できること。ほとんどの市民は立体駐車場では不安、不便といいます。年配者や子供連れ、特に障がいのある方々です。駅前構想では、あまりに狭すぎます。JR 東北本線の線路と数 10m 程しか離れていません。参考にしたと思われるオガール図書館は駅から道路一本あります。数百 m は離れています。また久慈の図書館は駅舎、線路とも近くに建っていますが、責任者の方に聞いたら、「騒音は気にならないが、敷地が狭く前の図書館の方が駐車場が広く良かった。」と言っていました。久慈からの列車は本数も少なく貨物列車は通っていません。花巻駅ではそうではありません。本数も多く、長い貨物列車もあります。警笛、振動など騒音は激しいものがあると思われます。また、すべての市会議員が一年近くかけてまとめられた特別委員会の結果報告、一図書館は市有地に一をリスペクトするのであれば、駅前建設は考えられないと思います。

その理由 2 として、自然に囲まれた図書館にできること。平成 24 年 10 月にまとめ上げられた「花巻図書館への提言」にも明るくゆったりとしたスペースと、自然と調和した場が望ましいとあります。病院跡地の周りには木があります。さらに斜面には賢治の作品に出てくる草木を植えれば、先の検討会で藤本委員が話された子どもは開放的な自然が広がる場であれば、安心して図書館に入るといいうお話にも合致します。目に入る草木、足元のアリヤダンゴムシは、大人にとっても安らげる場となります。市長は駅前に建設するのであれば、屋上に木を植え足元に芝生があれば自然は出来ると言われましたが、それは自然といえるものではありません。

その理由 3 として、駅前は全ての市民が利用しやすい場とは言えません。駅は交通の拠点で三町地域をはじめ郊外からも来やすく、高校生やビジネス人、高齢者、子供など全ての市民が最も利用しやすい場所だと市長は言われましたが、はたしてそうでしょうか。花巻駅は、他の駅と同じとは考え難い。駅前広場は狭くすぐ崖になっています。JR の在来線は減っており市内バス路線も減便あるいは廃止となっております。駅が交通の要衝だとばかりはいえません。まなび学園は駅から離れている、道路が狭いと言われますが、そもそも、駅を基準に考える必要があるのでしょうか。私達が駅の西口で集めたアンケート 250 人あまりの中の 50 人は 10 代でした。駅前図書館を望んでいる多くは、列車利用の高校生で、市外から

の通学生もかなりありました。その中でも図書館はまなび学園周辺にあれば良い静かな所で本を読みたいという要望もありました。市内に住む高校生は、多少の距離は平気で徒歩や自転車で移動し、コロナ前は、まなび学園の開放フロアに大勢集まり学習しており、一般の方々が遠慮するほどでした。まなび学園周辺の道路の狭さをマイナスに言われますが、今まで、病院や学園の利用者、税の申告が重なっても大きな事故はありませんでした。もちろん通学路なので整備は必要なのは言うまでもありません。しかし、それで病院跡地を否定できるものではありません。市民の足としての市内循環バスの本数を増やしてほしいのです。市民の皆さんが心配しておられました旧総合花巻病院の解体工事も進められていて、工期は来年の3月までとなっております。

平成24年10月に花巻図書館への提言 この間の立地適正化計画では、まなび学園付近の市有地と明記されています。平成29年8月には新花巻図書館整備基本構想が出されました。これを充分尊重して具体的な計画が発表されるものと市民は思っていたはずでした。市長は今でも、多くの市民の声を聞いて決めるといっていますが、いったい何時まで待てばいいのでしょうか。今、場所を決めても建設までには相当の時間を要します。解体の終わる来年の3月までには決まるのでしょうか。最初の検討会で図書館を早くほしい。わくわくする図書館と発言された委員さんと同感です。

図書館本来の問題からは離れますが、花巻病院跡地に建てるのは大賛成だ。谷村の跡地を見ろ。市が病院跡地に図書館を建てることと決めれば解体工事を遅らせるとか、投げ出すことはしないだろうから。と御田屋町の方々も言いました。また上町商店街をめぐる町づくりの観点からも、マルカン食堂、おもちゃ美術館、2棟の集合住宅、女学校通りの道路整備終了、第1、第2合同庁舎、吹張町プロムナードロード、仲町にも住宅が増えています。市役所も体育館も機能するでしょう。そして、この一画に生涯学習の拠点施設としてのまなび学園と図書館が並び建てば、相乗効果も期待大であります。花巻市が宣言している生涯学習都市として名実ともに誇らしい場所となりましょう。市長は駅前であればなはんプラザとコラボした利用もあると言われましたが、なはんプラザを利用している方々とまなび学園を利用している方々では、団体数、人数とも違います。もちろんまなび学園を利用している方々が多いのです。さらに自分達で自主的に計画運営していて、発表会まで開催しています。まさしく生涯学習を体現しています。この近くにこそ図書館を建設すべきだと、私達新花巻図書館を考える会は主張している訳です。更にいまひとつ、花巻は詩人・童話作家宮澤賢治の生誕の地。今も賢治を求める声は少なくありません。花巻は賢治の里、こう名乗れるのは花巻だけです。賢治の里に相応しい図書館を建設することは、私達の未来への責任であるとも思います。まさに市長の言われる百年の計で、自然ある、そして賢治や光太郎の縁の地、旧総合花巻病院跡地に建設されることを強く要望します。昨年私達は市民の皆さんの声として、2100筆の署名を市長に届けましたが、市民の声として受け取ってはいただけなかったのでしょうか。図書館は未来世代への贈り物でもあります。建設場所を誤っては大変なことになります。

私は、最後に声を大にして、新花巻図書館整備の3つの基本方針に基づいて、建設場所は旧総合花巻病院跡地にするように希望いたします。以上です。

市川座長

はい、これは山下さんの団体としての意見ということで、今日の説明も経てもこの意見ですということによろしいですね。

山下牧子委員

はい。

市川座長

はい。それでは皆さんから、山下さんのご意見についての何かでも構いませんし、先ほど、ご説明をい

たしました件で、何かご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、はい。

佐々木史昭委員

はい、山下委員のご意見をご拝聴させていただきまして、まなび学園を利用されている方々を中心とする市民の方々は、このようなご意見だろうという理解をいたしております。市民は9万人いる中なので、多くの方々の立場に立って委員それぞれが意見を述べるということで、私は商工会議所の立場で委員をさせていただいているということでその立場で意見を述べさせていただきます。会議所の中でも、一定の話し合いをしてですね、駅前を希望している方々が多い状況です。できればJRの敷地を買い取る形にして市有地にして図書館を建てる。立体駐車場も最低でも2階になるようですが、今日の説明を聞いて、まだ会議所に戻って議論をしていないので、個人の意見となりますが、西口、橋上化を含めた形での駅舎の整備をJRと一緒に進めて、西口までを含めた広範囲の中での駐車場の利用を考えれば、初期投資も少なくすむし使い勝手もいいのではないかと。またなんととっても西口には中学校や高校が西側にも多く、駅を中心に活動されている方も多いため、広い世代の方々が駅を中心に西口にも活動の拠点を持たれて、徒歩で駅に近いところで図書館を利用できるということであればかなり活気のある駅前になるのではないかと思います。また市長の説明を聞くと、花巻市が立地適正化計画を策定したことにより、国土交通省等が用意している補助金も活用できますし、合併特例債の活用も考えるとこれだけの大きい建物を建てる割に将来にまわる負担も少なく済む、このタイミングで駅前に元気のある施設を用意するというのが、花巻にとって、非常に、むしろやるべきことなのではないかというふうに、商工会議所のほうでは考えておまして、皆さんと議論ができればなというふうに考えております。

市川座長

はい、ありがとうございます。ほかにご意見。質問でもいいですよ。

前野祐子委員

確認ですが、総合花巻病院跡地というのは土地の売買交渉が必要だということで、ここは市有地ではなく市で買い上げが必要だということでしょうか。

事務局（高橋次長）

はい。必要になります。

前野祐子委員

はい、わかりました。

早川光彦教授

駐車場について私のほうから一般的なことについてお話を申し上げたいと思います。6頁をお開きいただけますか。6頁、駐車場に対する検討のところ。まず、この資料はですね、最寄駅から徒歩15分圏内の類似図書館の駐車場を調べたということです。で、駅から、非常に近いところの特徴の一つとして、都市部で駅の周辺もしくは、目の前のところがありますけども、私がいた南相馬も目の前ですが確保できる駐車場を台数にどうしても制約がかかります。都市部であればあるほど、この制約がかかります。ただ花巻ぐらいの人口と、人の動きであれば、この中に幾つも見られますが、利用可能な駐車場を借り上げているところがあります。そうやって、オープン当初はたくさんの方が来ますので対応している。もう一つ、一関の例で言うと先ほど事務局からも説明がありましたけども、ホールと共有で使っているんです。一関市市民ホールが満杯になるようなときは、やっぱりもう借り上げないと。いつもこう満車状態、私も何回か見っていますが、それで、周りに借り上げると、というような形をとっているところが、見受けられるということですね。駐車場については、絶対これだけは大丈夫、これだと絶対足りないということは非常に難しいところだと思いますけれども、そういった、対応方法も一つあると。いうことをお話して

おきます。

次に場所の問題ですが、今まで委員の皆さんとも、お話ししてきた中で、せっかく先ほど佐々木委員からもありましたけども一度建てると何十年と使う、これ、他の委員さんも一致するところだと思うんですけども、今までの図書館と違うのが、先ほど、住民 1 人当たりの数字がまるごと市民会議の資料で他の資料から引用されていましたけども、新しく図書館をつくって住民 1 人当たりやっぱり 8 という数字ぐらいを目指さないと、新しい図書館ができて良かったですねと市民の方々にお認めいただくのはちょっと難しいかなと私は思っています。住民 1 人当たり 8 冊ですね。で、入館者については前も申しあげましたけども、土日であれば、2000 人を優に超えてといくというのは、他の図書館のこれまでの実績からお話ししていることです。場所がどこであれですね、そういうところを目指していくときに、どこが妥当であるのか、あとは図書館の機能が 1 番発揮しやすいところは、どこであるのかというような考え方があるかなっていうふうに思いますので、せっかくつくってやはり、もう一度つくれば、40 年 50 年使えるような施設になりますので、やはり、こういう議論をぜひとも発揮したい。このぐらいの方々に使っていただきたい。前に私一度、数字のことでお話ししましたが、花巻のですね、図書館の実質利用率ですね。1 年間に 1 度でも使った人を 1 とカウントした場合ですね、これ非常に出すのは難しいですが、30% はいてないと思います。下手すると 20% 台、これを数字で見れば 7 割 8 割の市民が使っていないということになるかと思えます。それを、やはり、大きく変えていく 30%、40%、50% 近くまで目指すのかということになれば、どの場所が妥当なのか、どこが 1 番図書館の機能を発揮できるのか、将来にわたってですね、よくこういう例が見られます。建てて 6 年目に収蔵能力がいっぱいになったというような例が、非常に残念ですがよく見られます。いっぱいになってから私のところに相談にこられる図書館もありますが、そうならないようなきちんと機能を発揮できるところがどこなのかというのは、やっぱり考え方もあるかなというふうに思います。私のほうから、以上です。

市川座長

その他に皆さん、ご意見、あるいは、質問でもいいです、早川先生に聞かれることでも大丈夫です。

白岩拓樹委員

先ほど資料を渡した中で、先ほども説明しましたが、要望書としまして、1 頁の下のほうに書いていますけど、まず早期の建設場所を出してほしい。場所については我々のほうは、グループの中で、6 割 8 割は駅前、あとは大体、まなび学園という感じになっています。要望書に書いてありますが、2 番目に花巻市のまちづくりにおいて、図書館整備事業は重要課題の一つであることから、行政及び市職員全体での意識高揚に努められるようお願いいたします。と書いています。これはなぜかという、我々もホームページをつくったりとか、会報をつくったりとか、研修会は最終的にできませんでしたが、職員は何をやっているのかと。図書館さんとかは一生懸命やったと思いますが、職員の方の図書館に関する熱意が感じられないですね。なぜかという試案検討会議を冬の頃からやってないんだけど、出てきたら、まだ試案ができあがっていないとか、何をしてる、どういう計画でしてるのかよくわからないとあって、まずは職員の方々が図書館を建てることに関して意欲をもって喜びを持ってしてほしいなということがあります。我々はそれを感じないですね。むしろやりたくない、業務だからやってるんだっていう感じがします。図書館を建てる仕事はすばらしい仕事だと僕は思っていて、できればそういう仕事をしたいなと思っていて。立案自体がそういう気持ちでやってもらいたいなと思いあえて書きました。そういうふうにしていただきたい。

また 3 か月経って、今からまとめる段階で、基本計画ができないネック、問題点がよくわかんない。建設地の問題なのか、まだ出来てないのは、それをちょっと教えてほしいんですけど。

事務局（高橋次長）

先ほど、私が前回の試案の修正案についてご説明させていただいて、皆さんからご質問等ご意見等がなかったのですが、現段階において、試案の修正案については委員の皆様からご了承を得たということで、サービスと機能の部分については、今回で完了したものと事務局では考えておりますが、この後、試案の中に建設場所、記載する関係がございまして、試案検討会の所掌事務として、試案のほうに記載する内容を検討するということがございまして、引き続き建設場所について検討していただいた上で、試案は完成になるのかなというふうに思います。

あくまで、皆様からいただいたご意見を整理して事務局案を整理し、ご了承いただいた内容について、再度確認をいただき、試案は完成するのかなというふうに思います。ですので、先ほど白岩委員から確認のあったいつの段階でできるのかという点、サービスと機能の面については、本日皆様からご了承をいただいたというふうに、事務局のほうでは考えております。以上でございます。

白岩拓樹委員

ということは試案としていつ出す予定ですか。この前の前回のやつ。前も言ってるんですけど、オンライン会議もやって、やっぱすごく、やってないことの原因がいろいろ違う計画室の計画を立ててほしいと思います。

例えばホームページを計画室でだしましたが、市役所と花巻図書館と計画室、これを統合してないから、すごく検索しにくいですね。きちんと計画室のホームページから図書館にいけるとかね。連携というかそういうことをしているかどうか疑問なわけですね。花巻図書館の現場の声を聞いているかというのをちょっと疑問なんです。きちんと分かる形でホームページを統合して発信してほしいと。そうじゃないとこちらも計画室の動きが見えないんですね。それをきちんと情報発信してほしいというのは、それよろしくをお願いします。

市川座長

私、部長としてですが、図書館の職員が意欲を持ってやってないってことはないと思っています。私も図書館以外の部署も、たくさんあって全部図書館を見ることができないわけではありませんが、この図書館計画室の職員は、ヤル気になって頑張っていると思っています。

3か月とかコロナの時で会議が開けないときはありました。会議のために色々準備をしているんです。こういう新旧対照表も、皆さんにお出ししているのは、まとまったものを出しているわけですが、これが出る前の段階っていうのは、何回もあるんですよ。それについて、まず室内で議論して整理する。それができた段階で、ある程度まとまったもので来ますけども、私は手直しするわけですね。それも何回もあります。その上で、ちゃんと市長も見ていただいたりしているわけですから、そう簡単に今日の会議の結果が明日できるかっていうそういうものではありません。それは全てです、ホームページに出すものであっても、きちんと、職員が考えて、ひとりでやっているわけではないので、それは責任とれる人が見てやるっていうのは、時間がかかるものです。それはご理解をいただきたいというふうに思います。

この試案についてはですね、どのように、決めてから、この今回の建設の場所、山下委員からもありましたけれども、建設場所について議論していないというのは、まだやっていなかっただけですね、やらないつもりではなくて、試案検討会議で長く議論してきたわけで、そこはご容赦いただきたいと思いますが、これから議論をしていただくということでございます。しっかりとした、説明を今回まずさせていただいて、皆さんからご意見をお聞きすると、そして、またこういう資料もあったほうがいいのかですね、何かこう、例えば先ほどまなび学園の利用者が多いというようなお話ありました。確かに、私の感覚では、こちらのほうが多いとは思いますが、なはんプラザとそんなに変わらない13万と15万とかそれぐらい

ではなかったのかなと、コロナの関係で若干数字が違ったりしていますが、そこがちょっとどうもちょっと調べればいいかなとかというところもありますので、そういうところも含めて検討できるかなというふうに思います。その後で試案を定めるとかですね、計画の案を、我々がお示しできるようにしていきたいというふうに思っています。皆様の早く場所を決めろという意見はわかります。我々も、早くやりたいですよ、やりたいと考えて進めているということをご理解いただきたいというふうに思います。

白岩拓樹委員

さぼっていると言っているわけではなくてきちんと計画、例えば、建設地を議論するのであればいつからいつからと一応決めて、当然我々グループも例えば視察に行こうかって、ただでやるわけ、その計画（年間の日程表等）自体がわからないから、これはもう、いきなり何かばたばたと言ってもしょうがないんです。

例えば、私、こう書いたが、1頁、計画室の情報発信について例えば花巻図書館に新花巻図書館のコーナーとか作るとか、図書館に来た方が新しい図書館に関する情報を目にするコーナーをつくってほしいなど。ポスター貼っていますけど。紫波町図書館に行けばわかるんですけど、新しい図書館に関する本をコーナーにしているんです。そういうのもやってほしいな。

佐々木史昭委員

事務局が前に進めようとする議論に対して、ご自分の意見と通そうとする委員がいらっしゃるから、進行が進んでいないじゃないかなと思います。

白岩拓樹委員

ただ、私が書いているのは前から言ってることです。これを、意見を

佐々木史昭委員

今日は建設の議論をするんですよ。議論の時間はあと15分しかないんですよ。

白岩拓樹委員

ちゃんと情報発信して、我々にわかるようにしてほしい。図書館に行ったら新しい図書館を作る気運が見えるようにしてほしい。

市川座長

新しい図書館についてちょっと図書館って何をすればいいかっていうのは、何か具体的によくわからないので、それはちょっと後でお話し。

白岩拓樹委員

だからそういうこともちゃんと、計画室の計画です。以上です。

市川座長

ちょっと時間もないので、あと10分ちょっとです。場所についてのご意見をお持ちの方、今回だけで終わろうとは思っていませんので、次回あるいは所属の団体に戻って、この資料を説明されてから、ご意見の集約ということもあるかもしれません。それは、必ずしも集約しなくてもいいわけで、こういう意見があったということ踏まえて、ご意見いただければなというふうに思います。

平澤広委員

駅前とまなび学園の2論にわかれていて、それぞれ一長一短があるなと思って聞いていました。

旧総合花巻病院跡地を利用する上で、アプローチは南側の駐車場想定の方から入ることを想定していると思うんですけども、北側のヨーカドーの方からもアプローチできるように、一般道双方からアプローチできるような施設であれば、街のイメージもかわるのではないかなと思うんですが。

事務局（高橋次長）

旧総合花巻病院跡地の時に説明しましたが、花巻城跡という史跡です。史跡の中でどう開発するかについては、教育委員会文化財課の確認が必要かと思います。そういう部分も踏まえ、今検討はしておりますが、なかなか難しいという感触ではあります。

平澤広委員

史跡を外すことはできませんか。外すことができれば面白い建物になると思うのですが。

事務局（佐々木室長）

意見として非常に貴重な意見であると思いますが、あの地点は北側のほうが、急傾斜地になってございます。ということになりますので、その道路ができるかどうか今、現状の道路、ご存じだと思いますけれども、冬季間閉鎖になっている道路がございまして、ヨーカドーの部分ですけれども、そういう形状もありまして、検討の余地はあるのかなと思います。急傾斜地に道路をつくるという部分を見ると、先ほど史跡の部分もありますので、なかなか難しいところがあるところと考えるところでございます。

市川座長

ほかにご意見、またご意見ご質問などありますか。

小国朋身委員

私の意見ですが、駅のほうを進めたらどうかと考えていました。というのは、この場所については、まなび学園があるわけで、さらにこの施設も古くなっていましたから、近い将来、25年もつという話ですけれども、それまでもつかちょっと不安なところがあるんですけども、建替えが考えられると思います。そのときに、やっぱりこの広さ、今日見てみましたが広く欲しいですね。さらにこの場所に建てるのであれば、この規模くらいのもので欲しいでしょうし、先ほども出ましたけども傾斜地の問題ありますから、この場というのは多分、建てることができないと思います。ですから中の方にはいってくと。そうすると、この全部を、ゆったりと使いたいのではないかなんていう将来的な構想を持ったときに、この場所はそのまま置いといたほうがいいのではないかなんていうふうに考えました。

それから駅の方ですが、実は私は花巻駅を2回しか使ったことがありません。住まいが大迫ですから電車で使うことなく、西口に入り口、いわゆる駅舎への入り口がないことを最近知りました。何でそんなに騒いでいるのかと思ったら、実は、入り口のなかったわけでした。であれば、今回の図書館を利用して、線路の上に立体駐車場と駅と図書館を一気に作ったら、西口からも入れるし、東口も使えるし、人の交流がよくなるのかなんていう意見です。あくまでも意見ですので、もし出来たらすごいなというところで

それから、立体駐車場は、冬場の積雪になったときにいいんですよね。雪かきもすることがないし、すべらないので安心して車をおけますので、そういう形のものでいいかなんていうことです。以上です。

市川座長

ありがとうございます。

早川光彦教授

新しい図書館が出来たときによく見る場面と、ちょっと課題を私の知る範囲でお話したいと思います。新しい図書館ができる先ほど言った、やはり、委員会としてもこう押さえておかなきゃいけないのは、今まで利用していない人が図書館に来る、これはやはり考えておくべきだなんていうふうに思います。今使っている人だけが使う図書館ではないと。これは、そういう事情もはっきりしているのが一つですね、数字で言えば非常に今花巻住民1人当たり貸出し点数3.7ぐらいですかね、館長、そのぐらいでしたかね。目標とすべきは倍ですよ。となると、やはり今まで来てない人が多く利用されるってというのがあって、それで満足が妥当なのかという点が1点。

2点目ですね、私が新しい図書館を見に行ったら感じる事です。新しい図書館の利用する交通手段ですが、自転車と徒歩の利用が、やはり、増える傾向にあると職員にも伺っております。それで、こんな図書館を見たことがあります。ぴかぴかの新しい図書館の前に、自転車が無造作に置かれているという図書館を見たことがあります。これはやはり注意しないとですね、先ほど車社会がどの程度続くのかは非常に難しい問題だとは思いますが、新しい図書館ができると、当然利便性が上がりますので、自転車、原動付き自転車も含めてですね、よくそこ設計上の盲点って言われます。ああいう駐車場を確保したから大丈夫だと思った自転車が増えたというようなですね、思っている以上に、自転車、徒歩での利用がやっぱり増えるというところをちょっと、頭に入れて、考えていくっていう点も必要かなっていうふうに思います。以上です。

市川座長

ありがとうございます。

佐々木史昭委員

小国委員の先ほどのご意見、拝聴させていただいて、私自身が思うことですが、まずはハードほう、駅舎の中に図書館を建てるっていうのは、多分、無理でしょう。市として土地を所有して、そこに建てるもことしかできないと思うので、ただ、JRは民間企業として、駅舎を花巻市側と話し合っ、て、JRの判断で駅舎を建てる計画を立てているのと連動させることができるので、それを今、市当局はお考えになっているのかなと。駅の橋上化で西口があったら、入り口が近いところで、東口の市有地に図書館を建てるそういう流れで考えているのかなと思います。それから小国委員の話聞いて思ったのは、立体駐車場もいいのではないかと。冬場は確かに便利だなと思いましたので、そうすると、もともとのスポーツ用品店敷地案、立体駐車場でもいいのかなと思います。JRから市が敷地さえ購入できれば、議会もそれをかなり気になさっていましたが、クリアになる可能性があるのかなと思います。以上です。

市川座長

ありがとうございます。

小国朋身委員

そうなればすごい、ぜひ。あと図書館の上に立体駐車場を作る方法もありますよね。今の建物ってそうですね。スーパーとか例えば盛岡イオンの側の蔦屋なども1階が店舗で上が駐車場になっているという作りになってしまうと、もう、駐車場も解決できるのかなと。盛岡フェザンのイメージですね、フェザンの駐車場があって、間に駅があって、組合せを上手にすればなんとかなるのではないかと思います。

市川座長

はい、ありがとうございます。

早川光彦教授

今の小国委員のお話ですが、非常に大切だと、私も思っています。海外の図書館を見ると、北欧で見ることがありますが、図書館から、駐車場から降りて、図書館まで歩くのに全く濡れないで行く工夫をしています。地上地下にかかわらず、もう一つですね、この図書館を見ると、ベビーカーですね、赤ちゃんを乗せて、数がすごく多いんですよ。そういうのも、今の小国委員のご指摘のとおり、やっぱり設計上の配慮で何とかかなるところがあると思いますので、小国委員のおっしゃるとおりだなと思ってお聞きしました。

市川座長

ありがとうございます。ほかに、ご意見、ご質問ありますでしょうか。

堀合範子委員

市議会でも、あちこちで、意見を何とか聞いたときにも、ぜひ、駅周辺とまなび学園どちらにするかという結論が、結論をつけないというか、市民の意見が、分かれているといいますか。今も委員さんたちの話を聞いておられますと、やはりあの駅周辺という考えと、まなび学園周辺という考え方、この二つがあると思いますが、今後話し合いをして、それなりに一つに絞られるということは、可能性としてはなくはないかもしれませんが、平行線で行った場合は、どのように決定するのかその辺のところは、いかがお考えでしょうか。

事務局（高橋次長）

基本的に現段階、事務局で考えているのは、委員の皆さんからいろんなご意見をいただいた中で、試案を作成するのは、事務局の判断でありますので、一度ご提示させていただいて、ご了承を得るという形になるのかなあというふうに考えております。ただ、どういうふうにして、事務局で決めたかっていうのもちゃんとご説明した上で、こういう判断でこちらのほうに決めましたという決め方が、現状ではいいのかなと思っておりますが、今、堀合委員がおっしゃるとおり、あまりにも分かれるようであれば、具体的なデータを検討データとして出して比較していただいてご意見をたくさんいただくという形がいいのかなと思います。まずはそこをちょっと重要視させていただき、私たちも判断をできかねている部分があるので、いろんな団体から推薦を受けた皆さんのご意見をいただけるよう、まずはデータを出して、委員の皆さんの知りたいことに対応させていただいて、ご意見をまずいただいた上で、事務局で判断させていただければなというふうに考えております。

市川座長

よろしいですか。ほかにありますでしょうか。

前野祐子委員

時間ももう終わりですけれども、最後に夢のような話を。私の頭の中に勝手に入っていることですが、実は私も、駅前にあったらいいなと思っています。そして、今、走っている蒸気機関車がもう終わりになりますよね。なので、あの蒸気機関車、あれを駅前の図書館のところにどんと置いて賢治をPRする。もう何ていうか、観光の目玉みたいにして、尚且つ中にも入れるようにして、SLがある図書館とするのがいいのではないかと勝手に思っていました。

市川座長

ありがとうございます。ほかにご意見ありますか。よろしいでしょうか。

先ほど申しましたが、次回も今日のご意見を踏まえながら、各所属の団体とも、何かこうお話し合いをしてもらってですね、こんな意見もあったとかなど、次回も場所について少し議論をしたいというふうに、思っています。今日、いらっしゃっていない委員の方もありますので、ということでよろしいでしょうか。

それでは、議事を終わります。

事務局（高橋次長）

事務局からの報告をさせていただければと思います

前回、第7回の会議において白岩委員のより、本会議についてオンラインでの開催ができないかのご確認がありましたことから、委員の皆様のご意向を確認させていただきましたので、その結果についてご報告させていただきます。

調査につきましては、14名の委員を対象にアンケートという形をとらせていただきました。回答は12名の委員の方から頂戴し、参加できる委員が4名、参加できない委員が8名という結果でございました。

この結果を受け、事務局としてはこれまでどおり新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで対面で

の開催としたいと考えております。なお、状況により、希望者はリモートでの参加ができるよう対応を続けてまいります。

続きまして次回の会議につきまして事務局案として、5月31日を第1候補として、検討しております。日程は、改めて確認させていただきたいと思いますが、調整のほうをよろしく願いいたします。この日程は、あくまで事務局案ですので、日程は改めて調整させていただければと思います。

市川座長

以上ですね、よろしいでしょうか。それでは、本日は終了ということです。事務局お願いします。

事務局（佐々木室長）

委員の皆様、ご議論いただきありがとうございました。次回につきましては、色々日程を提示させていただきながら日程を調整し、決定したいと思います。お忙しいところ大変恐縮ですが、よろしくお取り計らい願います。

それでは、これをもちまして、第8回新花巻図書館整備基本計画試案検討会議は終了いたします。本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

事務局（高橋次長）

最後に事務連絡となりますが、要望書を提出していただいた若い世代の団体を白岩委員からこの会議に呼んでみてはどうかご提案がありました。

資料の下にもありましたが、委員の皆様のご承諾をいただけるのであれば、大学生の若い子たちが市に対して要望しております。その団体について、この検討会議の場に呼んでもよろしいでしょうか。こちらについても改めて、確認させていただければと思います。よろしく願いいたします。